

## 早稲田大学芸術学校 2015年度学校評価（自己評価）

はじめに

早稲田大学芸術学校は1911年の早稲田工手学校創立以来100年有余の歴史を有する夜間の教育機関である。2010年度には建築教育に特化した専門学校として建築科・建築都市設計科の2学科体制に再編され、広く社会に開かれ、社会人・学生を問わず多様で優れた人材を受け入れながら、芸術・工学分野を横断した独創的で実践的な建築教育を行ってきた。

本校では、以下の教育理念の下、第一線で活躍する建築家や大学教授陣による少数精鋭主義をモットーとした、丁寧できめ細かな指導が行われ、優れた教育成果を上げている。

《教育理念（AA Idea）》

① 共につくる collaboration

学生と教員が建築都市のデザインを通して一体となり、次世代に向けての新しいメッセージを共に創り出します。

② 個性をのばす one on one teaching

各人に秘められた個性を発見し、その一人一人の個性を最大限に伸ばすために、スタジオ型による個別指導を行います。

③ 総合芸術としての建築をめざして toward the art and architecture

文系・理系の領域を超えた文理融合型の教育方針に基づき、建築を中心として様々な芸術分野を統合した新しい建築芸術を目指した高度建築家の育成を実現します。

現在、本校では、Waseda Vision 150 芸術学校将来構想に掲げた「総合芸術としての建築」を標榜する高度建築家養成機関として、世代や国籍を超えた優秀な高度建築家を多数輩出し、新しい”建築の早稲田”のブランドを高め社会に貢献することを目指し、教育活動および学校運営体制の改善に努めており、本学校評価はそれらに向けた諸活動の到達度確認、今後の課題の整理および改善策の検討・実現に活用される。

2015年度学校評価（自己評価）では、本校の現状を概観するとともに、新教育体制検討および広報活動に関する事項に重点を置いて評価を実施した。

### I. 学校概要

学科は建築科（2年制）と建築都市設計科（2年制）から構成されており、両科とも1・2年次は共通のカリキュラムとなっている。

建築科は製図などの実践的導入基礎教育を中心とした1年次の〈ベーシッククラス〉と、応用・専門教育を中心とした2年次の〈プロフェッショナルクラス〉の2年制とし、卒業時に二級建築士の受験資格が取得でき、卒業後4年以上の実務期間を経てから一級建築士の受験資格が取得できる。

建築都市設計科は、建築科と共通の2年間に建築デザインについてより高度なデザインの専門性をプラスした3年次の〈ディプロマクラス〉を加えた3年制とし、卒業時に専門士の称号および二級建築士の受験資格が取得でき、卒業後3年以上の実務期間を経てから一級建築士の受験資格が取得できる。

## II. カリキュラム

本校では夜間開講という特長を活かし、早稲田大学の教授陣に加え、第一線で活躍する建築家や実務家など各専門領域で活躍する講師陣を招へいし、建築デザインに特化した短期集中型の分野横断的なカリキュラムを実現している。文系・理系の領域を超え、建築をとりまく様々な分野を融合し、総合力ある新しいプロフェッショナルの育成を目指している。

授業は月曜日から金曜日、前段 18:15～19:45、後段 19:55～21:25 に行われており、春学期（4/1～9/20）と秋学期（9/21～3/31）との2学期制となっている。授業実施日・休業日などの学事日程は早稲田大学暦に則して定められる。

### （1年生）

「1年次の〈ベーシッククラス〉では「ドローイング」をコンセプトテーマにした製図・模型表現などの基礎能力を養う」

建築に必要な知識と技術の基礎を総合的に学ぶことを目標とし、最初の演習科目となる建築設計表現では、図面の描き方、読みとり方等を学びながら、建築を支える基礎知識を習得する。講義科目も含めて建築をデザイン・構造・設備・環境・材料など様々な基礎的観点から総合的に捉えつつ、同時に図面を通して「建築とは」という視点を学ぶ。設計演習の後半では前半で学んだ基礎力をもとに、住宅を題材にしてその応用を学び、最終課題では住宅設計の課題に取り組む中で、設計の基本的な考え方・図面表現・デザインなどを総合的に学ぶ。

### （2年生）

「2年次の〈プロフェッショナルクラス〉では「エスキス」をコンセプトテーマにしたデザイン演習による専門的な応用能力を養う」

1年次で学んだ総合的基礎力をもとに、デザイン論、都市論、歴史、構造、生産、法規などの各分野で、より高度で実践的な建築の理論や技術を総合的に学び、展開することを

目標とする。総合演習としての建築設計計画では、1年次に習得した図面の表現力を前提に、美術館、集合住宅、宿泊施設など実際の敷地を想定した課題に取り組み、敷地の読み取りや考え方を敷地模型の制作等を通して学習し、その上で建物のプログラムを検討しながら空間の構成やデザインをエスキスして、最終的に図面や模型によって総合的に表現する方法を学ぶ。(※エスキス(仏)：手を使ってスケッチしながら案を推考すること)

(3年生)

「建築都市設計科の最終学年である〈ディプロマクラス〉は「ディプロマ」を目標としたユニット制によるスタジオ型個別指導で、より高度な専門性を目指す」

連続的に与えられるテーマ課題の設計実技が集中的に行われ、最終的には自主テーマである卒業設計をもって卒業が認定される。曜日ごとに決められた担当教員とそこへ配属される学生によって構成されるユニット内での多様な指導を基本とし、計画、デザインに関するマンツーマン的な少数精鋭の集中的で濃密な個別指導を行い、1年間という短期ながら各個人に潜在する能力を発掘し、実践的に通用する高度な専門能力を養う。

デザインを中心とした高度な専門性を目指し、各ユニットでは少数精鋭指導をもとに、それぞれのフォルムデザインをもって演習課題が独自に展開される。各演習課題の途中には、計画理論、建築作品の事例解説などの講義を行い、中間発表を経て全体の講評会を行う。最終的には演習課題で身に付けた理論と実践力をもとに卒業設計に臨む。

### Ⅲ. 2015年度重点項目(自己評価)

2015年度、早稲田大学芸術学校は次の各項目を重点目標として設定し、その教育活動および学校運営の改善を図った。以下、各目標についてその進捗状況を報告する。

#### 1. 新教育体制の検討

- ①新カリキュラム
- ②大学院進学予備プログラム
- ③他学術院との教育連携

#### 2. 新教育体制実現のための教員人事計画検討・立案

- ①教員人事計画の検討
- ②若手教員による教育内容の刷新

#### 3. 広報体制の見直し

## 1. 新教育体制の検討

### ①新カリキュラム

新カリキュラムについて、その教育内容をより一層建築デザイン・芸術表現中心へと大胆にシフトすることのほか、インテリアデザイン、インダストリアルデザイン、グラフィックなどの視覚芸術領域やリノベーション、コンバージョンなど時代のニーズに合わせた新領域への教育内容の拡充、および総合的なデザインマネジメント能力を備えた人材育成などを主なテーマとして検討を進めることとした。

今後は新カリキュラムの具体的内容の検討を引き続き進め、設置科目や想定する担当教員、履修ルールなど詳細計画を取りまとめる予定である。

### ②大学院進学予備プログラム

2015年度より大学院創造理工学研究科建築学専攻修士課程に芸術学校専任教員による建築芸術論研究室が開設され、専門学校と大学院との一貫教育体制がスタートした。この一貫教育体制により、本校建築都市設計科（3年制）と大学院（修士課程2年制）との計5年間で国家試験受験資格と専門士の称号が取得でき、大学院修了時には修士の学位が授与される。なお、学士の学位を有する本校建築設計科卒業者（卒業後2年以内の者）を対象とした大学院創造理工学研究科建築学専攻修士課程への推薦入学制度（特別選考制度）も準備されており、本制度の活用によるさらなる進学者の増加が期待される。

また、本校から大学院（大学院創造理工学研究科建築学専攻あるいは海外を含めた他大学大学院）への進学希望者を支援するための「大学院進学予備プログラム」について、大学院入試に対応したポートフォリオの作成指導などを主な内容とすることとした。この大学院進学予備プログラムを本校における大学院進学支援体制の中核と位置付け、上記①新カリキュラムとともに高度建築家養成機関実現に向けた新たな教育システム計画「スペシャル・マスターコース」のテーマとして取り組むこととした。

今後は本プログラムの具体的内容の検討を引き続き進め、詳細計画を取りまとめることが課題である。

### ③他学術院との教育連携

2015年度より、本校と早稲田大学創造理工学部建築学科との連携の一環として、学習機会の拡大と学生の相互交流および教育活動の活性化を目的とした特別聴講制度が開始され、同制度に基づく科目の相互履修がスタートした。今年度は芸術学校生6名、創造理工学部生3名を相互に受け入れた。

また、他学術院との連携について、建築やデザイン・芸術表現に関する科目を設置している文系学部等との連携を想定し、その連携内容や連携方法について引き続き検討を進めた。

今後は具体的な連携先、連携内容および連携方法について引き続き検討を進め、可能なところから実現に向けた準備に着手する。

## 2. 新教育体制実現のための教員人事計画検討・立案

### ①教員人事計画の検討

「Waseda Vision 150 実現のための教員増を伴う学院等将来計画の支援策」に対する申請において、新カリキュラムへの移行や大学院進学予備プログラム新設等を実現するための教員体制として、今後の定年退職や任期満了に伴う後任人事および教員増も含めた人事計画を新たな教育システム計画の一環として立案、提示した。

今後は上記申請において提案した教員人事計画について、教務部等関連箇所とも相談しながら実現に向けた調整、手続きを進める予定である。

### ②若手教員による教育内容の刷新

2015 年度に若手建築家 1 名を准教授として新規に嘱任するとともに、有力な若手建築家数名を新たに非常勤講師として招聘し教育内容の刷新と強化を実現した。

## 3. 広報体制の見直し

芸術学校の知名度アップのため、社会で活躍する本校卒業生によるポートフォリオを題材とした学校案内別冊を新たに発行するとともに、Web による広報のさらなる充実を目指し、本校ホームページのリニューアルや学校案内のデジタルパンフレット化による配付を開始した。

今後は、従来からの取り組みに加え、より Web 媒体に重点を置いた広報活動を展開することが課題である。また、学内他キャンパスあるいは学外における学校説明会等の実施について検討を進める。

併せて、より充実した広報活動やイベントを展開するために、その資金を企業（大手ゼネコン、設計事務所等）からの寄附に求めていく。

以上